

薬剤師業務の基本 **知識・態度**

薬局管理から服薬指導, リスクマネジメント,
在宅医療, 後発医薬品, 病棟業務まで

● 推薦の言葉	望月正隆
● 監修の序	上村直樹
● 編集の序	下平秀夫
● 実務実習モデル・コアカリキュラムと本文参照ページの対応表	i
実務実習事前学習方略	i
薬局実習方略	iv
病院実習方略	ix
OSCE との対応表	xiii

第 1 章 薬剤師業務の変遷と今後の展望

1. 病院薬剤師 関連LS P602, H601	平井みどり	2
1. 病院・病棟と薬剤師の歴史をふり返る		2
2. 病院薬剤師業務の移り変わり		3
3. これからの病院薬剤師		5
1) チーム医療などへの参加 / 2) 治療への主体的な関与		
2. 薬局薬剤師 関連LS P602	上村直樹	7
1. 薬局薬剤師業務の変遷		7
2. これからの薬局薬剤師をとり巻く環境		8
3. これからの薬剤師に求められるもの		9
1) 知識・技能・態度 / 2) チーム医療		

第 2 章 薬剤師倫理と態度

関連LS S101, S102, P105, P201, P401, H101, H601

下平秀夫

1. 医療の担い手としての倫理規範	11
2. 身だしなみ・言葉づかい	12
3. 薬局に関する法令	13
4. 守秘義務・個人情報の保護	14
1) 守秘義務 / 2) 個人情報保護	
5. 病院薬剤師に求められる倫理とは	16
1) 治験における倫理面での役割 / 2) 院内製剤における倫理面での役割	

第3章 薬剤師業務

1. 病院	関連LS S101～S106, S301, S401, S601, P503, H101, H102, H206, H401～H408, H601	奥山 清	19
1. 病院薬剤師の業務と役割			19
2. 病院薬剤師の心得			20
3. 病棟業務			22
4. チーム医療			22
1) 感染対策チーム / 2) 褥創ケアチーム / 3) 糖尿病のチーム医療 / 4) 栄養サポートチーム / 5) 緩和ケアチーム / 6) がん化学療法			
5. 治験管理業務と市販後調査			29
6. 専門薬剤師			30
7. 院内委員会			30
8. 薬薬連携			32
2. 薬局	関連LS S101, S102, S107, P210, P301, P323, P326, P327, P401, P503, P509, P512, P513, P515	下平秀夫	34
1. 医薬分業とかかりつけ薬局			34
1) 医薬分業のメリットとデメリット / 2) かかりつけ薬局			
2. 薬局薬剤師の役割			35
3. 薬局業務運営ガイドライン			37
4. 構造設備			37
1) 薬局の構造設備の基準(薬局等構造設備規則) / 2) 薬局の独立性と立地 / 3) 薬局の掲示物 / 4) 待合室, 一般用医薬品などの陳列 / 5) 処方受付・投薬カウンター / 6) 調剤室 / 7) 医薬品倉庫 / 8) 情報公開・安全管理体制の整備			
5. 薬局開設者			43
6. 管理薬剤師			44
7. 調剤録			44
8. 調剤報酬と保険請求			45
1) 医療保障制度 / 2) 保険処方せん / 3) 保険薬局・保険薬剤師 / 4) 保険調剤報酬			
9. 薬局の地域医療連携			49

第4章 服薬指導

1. 服薬指導	関連LS S103, S209, S601～S606, S701, P201, P203, P204, P316, P318, P320～P322, P406, H116, H117, H405	高橋 寛	51
1. 服薬指導とは			51
1) 服薬指導の目的 / 2) 具体的指導内容[患者に伝える内容とは?]/ 3) 服薬指導を進める上でのポイント / 4) 服薬指導の手法とその利点・欠点			
2. 服薬指導時の態度			58
1) 共感的態度で接する / 2) 閉じた質問と開いた質問を使い分ける / 3) プライバシーに配慮する / 4) 話す時のポイント / 5) 処方せん・薬歴内容の把握			
3. 服薬指導の手順			58
1) 事前準備 / 2) 導入 / 3) 情報収集 / 4) 情報提供 / 5) 質問を受ける / 6) あいさつ / 7) 薬歴の記載			

2. 薬歴管理	関連LS S103, S306, S501, S502, S506, S605, S606, P204, P317, P321, P322, P328 ~ P332, H104, H126, H401, H403, H406	高橋 寛	61
1. 薬歴とは（薬歴管理の意義）			61
2. 薬歴管理の目的			61
3. 薬歴の形式			62
4. 薬歴簿の記載内容			62
1) 患者についての記録（患者の基本的情報）／ 2) 処方についての記録（処方した医療機関名および保険医氏名・処方日・処方内容など）／ 3) 調剤についての記録（調剤日・処方内容に関する疑義照会の要点など）／ 4) 服薬指導で得られる情報の記録（日々の記録）			
5. 薬歴の記載方法			65
1) 患者に属する基本的な情報／ 2) 処方内容に伴う経過的な情報／ 3) 記載方式について			
6. 電子薬歴について			68
1) 電子薬歴／ 2) レセプトコンピュータとの連動性について／ 3) 電子薬歴の特徴／ 4) 電子薬歴の実際の運用			
7. 薬歴簿の保管・管理について			73
1) 保管形態／ 2) 保管場所／ 3) 薬歴簿の整理と分類			
8. 薬歴を用いたリスクマネジメント事例			74
3. お薬手帳	関連LS S605, P210, P321, P406, H114, H117	高橋 寛	77
1. お薬手帳とは			77
2. お薬手帳の利点			78
3. お薬手帳に記載する事項			78
4. その他の工夫			79
4. 患者への情報提供	関連LS S504, S602, S605, S606, P208, P210, P316, P321, P322, P406, H114, H117, H601	高橋 寛	80
1. 患者が必要としている情報			80
2. 薬剤情報提供文書			84
1) 薬剤情報提供文書の意義／ 2) 義務化された薬剤師の情報提供／ 3) 薬剤情報提供文書の記載項目／ 4) 薬剤情報提供文書の注意点／ 5) 実際に工夫している点			
5. 注意を要する疾患，小児，妊婦・授乳婦，高齢者への服薬指導	関連LS S602, S606, P318, P322	高橋 寛	88
1. 注意を要する疾患について			88
2. 小児への服薬指導			88
1) 小児への服薬指導のポイント／ 2) 小児への散剤の飲ませ方の工夫／ 3) 小児薬用量／ 4) その他の注意事項			
3. 妊婦や授乳婦への服薬指導			90
1) 妊婦や授乳婦への服薬指導のポイント／ 2) 妊婦への薬剤投与の原則			
4. 高齢者への服薬指導			91
1) 高齢者の特徴／ 2) 高齢者への服薬指導のポイント			

第5章 医薬品管理

1. 医薬品管理の目的, 意義	関連LS S401, P101, P104, H201	奥山 清	94
1. 医薬品管理とは			94
2. 施設による違い			94
2. 品質管理	関連LS S402, S406, P105, P205, P331, H127, H202, H205	奥山 清	96
1. 保存条件			96
2. 医薬品の有効期限			97
3. 法的な規制			97
4. 医薬品情報と安全管理			98
1) 医薬品情報について / 2) 医薬品安全管理の重要性			
3. 在庫管理	関連LS S404, S405, P101, P205, H201, H203, H204, H206	奥山 清	100
1. 在庫管理とは			100
2. 在庫管理業務の流れ			100
3. 保険薬局と病院, 施設規模による在庫管理の違い			102
1) 保険薬局 / 2) 病院 / 3) 規模による違い			
4. (保険) 薬局における適正在庫の確保			103
5. 医薬品卸業者とMS			104
6. (保険) 薬局における在庫管理システム			105
7. 他薬局への分割販売(零売)			106
4. 法的管理が義務付けられている医薬品	関連LS S403~S407, P105, P314, P405, H108, H123, H205	花島邦彦, 奥山 清	108
1. 規制医薬品とは			108
2. 劇薬			110
1) 劇薬とは / 2) 劇薬の管理・保管 / 3) 劇薬の調剤			
3. 毒薬			110
1) 毒薬とは / 2) 毒薬の管理・保管 / 3) 毒薬の調剤			
4. 麻薬			113
1) 麻薬とは / 2) 麻薬を取り扱うための免許 / 3) 麻薬の譲渡・譲受 / 4) 麻薬の保管 / 5) 帳簿への記録 / 6) 麻薬の調剤 / 7) 病棟における麻薬管理 / 8) 在宅医療における麻薬管理 / 9) 麻薬の廃棄 / 10) 事故届 / 11) 年間届			
5. 覚せい剤原料			122
1) 覚せい剤原料とは / 2) 覚せい剤原料の譲渡・譲受 / 3) 覚せい剤原料の保管 / 4) 覚せい剤原料の調剤 / 5) 覚せい剤原料の廃棄			
6. 向精神薬			124
1) 向精神薬とは / 2) 向精神薬の譲渡・譲受 / 3) 向精神薬の保管 / 4) 向精神薬の記録 / 5) 向精神薬の廃棄 / 6) 向精神薬の調剤 / 7) その他: 調剤時に処方医に確認を要する薬剤			
7. 特定生物由来製品			128

第6章 医薬品情報管理

1. 医薬品情報管理の意義と目的

若林 進 132

2. 病院における医薬品情報管理—医療従事者向けを中心に

関連LS P205, P207, H301 ~ H307, H504

若林 進 134

1. 医薬品情報の収集 134
1) 個々の医薬品に関する情報 / 2) 副作用などの情報源
2. 医療関係者からの Q & A (受動的情報提供) 137
1) 医薬品識別に関する Q & A / 2) 医薬品から病名を考える Q & A / 3) 病名から医薬品を考える Q & A / 4) 配合変化・安定性に関する Q & A / 5) 副作用・相互作用に関する Q & A / 6) 薬物中毒などに関する Q & A / 7) 院内製剤に関する Q & A / 8) 一般用医薬品に関する Q & A / 9) 医事、薬事に関する Q & A / 10) その他の Q & A
3. 医療関係者への情報発信 (能動的情報提供) 143
1) 院内定期刊行物 (院内報) による情報提供 / 2) 院内医薬品集の作成 / 3) 院内ホームページなどによる情報提供 / 4) オーダリングシステム、電子カルテシステムを利用した情報提供
4. 患者への情報提供 145
1) 製薬会社が作成する患者向け医薬品情報 / 2) 施設内で作成する患者向け医薬品情報 / 3) その他の患者向け医薬品情報
5. 副作用報告制度 147
1) 市販直後調査制度 / 2) 医薬品安全性情報報告書

3. 薬局における医薬品情報管理—患者向けを中心に

関連LS P202, P206, P321, P404, P406, H504

下平秀夫 150

1. 薬局における医薬品情報業務の特徴 150
2. 薬局が利用する主な情報源 151
1) 医薬品インタビューフォームの活用 / 2) SNS の活用 / 3) 雑誌 / 4) 医薬品卸からの情報 / 5) 製薬企業からの情報
3. 薬局に備える主な書籍 153
4. 医薬品情報に関わる Web サイト 154
5. 薬局が行う情報提供 156
1) 患者・生活者への情報提供 / 2) 問い合わせに対する報告事例 / 3) DEM
6. セルフメディケーション情報 157
1) 一般用医薬品の添付文書 / 2) 健康関連情報

第7章 リスクマネジメント

1. リスクマネジメントとは

関連LS S501 ~ S503, S506, S507, P328 ~ P333, H126, H127 伊藤由紀 160

2. ハイリスク薬管理

関連LS P330, H126, H127, H401

伊藤由紀 162

1. ハイリスク薬とは 162
2. ハイリスク薬の薬学的管理指導 162
1) 病院 / 2) 薬局 / 3) 注意すべき薬剤
3. ハイリスク薬の薬剤服用歴管理指導の業務手順と方法 164

3. 調剤過誤防止・インシデント報告

関連LS S501～S503, S506, S507, P328～P333, H126, H127

伊藤由紀 166

1. 調剤過誤防止	166
2. ハインリッヒの法則	166
3. インシデント報告	166
4. 調剤過誤の実際	168
5. 調剤過誤および調剤事故の原因	168
1) ヒューマンエラー / 2) システムエラー	
6. 患者も味方に	170
7. リスク回避の立案および実施	170
1) 薬品棚の位置の工夫の例 / 2) 表示方法の工夫の例 / 3) その他の工夫の例	
8. 調剤の過程における具体的な調剤過誤防止例について	175
1) 調剤から鑑査まで / 2) 充填作業について / 3) 薬剤の交付について	

4. 院内における医療安全管理

関連LS S101, S102, S104～S106, S501～S506, P401～P407, P501～P503,

H101, H102, H126, H127, H401～H408, H601

小茂田昌代 182

1. 多職種チームに必要な医療安全の基本	182
より安全なチームを目指して「TeamSTEPPS」	
2. 医療機関における医療安全管理体制	184
1) 医療機関に求められる医療安全対策 / 2) 医療機関に求められる医療安全組織体制	
3. 薬剤師に求められる医療安全の役割	185
1) 薬剤師自らの過誤を減らす体制の整備 / 2) 安全なチーム作りへの貢献 / 3) 患者安全への貢献	

5. 感染制御

関連LS S104～S106, S411, S414, S503, H408, H503

小茂田昌代, 影山恵美子 193

1. 感染制御の基本	193
1) 標準予防策と感染経路別予防策 / 2) 手指衛生・咳エチケット / 3) 消毒・滅菌	
2. 感染対策の組織・活動など	197
1) 感染対策における薬剤師の役割 / 2) 抗菌薬の投与設計	

6. 過去に学ぶ調剤過誤の例

関連LS S301, S304, S501, S506, H125～H127

小茂田昌代 202

1. 事例：ベナンボックス医療過誤	202
2. 解説	202
3. 判決	203

第8章 在宅医療

関連LS S102～S106, S411～S413, S606, P105, P209, P501, P502, P505

伊集院一成

1. 在宅医療とは	205
2. 在宅医療の流れ	205
3. 訪問指導のための準備	206
1) 届出 / 2) 必要な書類 / 3) 在宅訪問に必要な設備	
4. 訪問指導の流れ	208
1) 処方医からの情報提供 / 2) 薬学的管理指導計画書策定 / 3) 処方せん受付 / 4) 調剤 / 5) 患者宅へ電話連絡, 訪問指導 / 6) 薬歴および報告書の作成	

5. 在宅医療で使用する器材	213
6. チーム医療としての在宅医療	215
7. 緩和医療との関わり	215
8. 在宅医療に取り組むためには	216
9. 在宅における服薬支援方法	216

第9章 薬剤管理指導・病棟薬剤業務

関連LS H401～H408

長谷部 忍

1. 病棟業務の概説	219
1) 病棟薬剤業務と薬剤管理指導業務 / 2) 入院患者に対する服薬指導の基本 / 3) 薬物療法の評価 / 4) 記録と情報提供 / 5) ハイリスク薬における薬剤管理指導業務 / 6) その他	
2. 病棟業務の実際	228
1) 入院時持参薬管理業務 / 2) がん化学療法施行患者に対する病棟業務 (ハイリスク薬) / 3) その他, 代表的な病棟業務の一例	
3. 医薬品安全性情報管理体制	244
4. 病棟薬品管理	245

第10章 薬剤師が行うフィジカルアセスメント

関連LS (H403, H405) ※

平井みどり

※現行のモデルコア・カリキュラムではフィジカルアセスメントは含まれていないが、今回は関連分野としてH403, H405を挙げた

1. 薬剤師とフィジカルアセスメント	247
2. バイタルサインとフィジカルアセスメントの違いとは	248
1) バイタルサイン / 2) フィジカルアセスメント	
3. なぜフィジカルアセスメントが必要か	248
4. 専門家でない薬剤師が行うアセスメントについて	248
5. コミュニケーションの1つとしてのフィジカルアセスメント	249
6. 学習の必要性	250
1) バイタルサインと解剖学・生理学的知識 / 2) 正常とは何かを充分理解しておくこと / 3) 違った視点からの情報収集の重要性 / 4) 目的を間違えないこと・薬物治療を適正に行う上での行動であることを常に忘れない	

第11章 薬局に特殊な業務

1. 休日・夜間・緊急災害時対応

関連LS P504, P506, P507

近藤剛弘 253

1. 休日・夜間対応	253
1) 休日・夜間における薬剤師の役割 / 2) 休日・夜間における薬局の対応 / 3) 休日・夜間における地区・地域薬剤師会の対応	
2. 緊急災害時対応	254
1) 災害時の医薬品などの備蓄および供給体制 / 2) 災害時における薬剤師の救援活動	

2. 学校薬剤師

関連LS P508, P510

塚原俊夫 257

1. 学校薬剤師の歴史	257
-------------	-----

2. 学校薬剤師の職務について	258
1) 環境検査について / 2) 健康相談と保健指導への参画 / 3) 学校の健康教育への役割について / 4) これからの学校薬剤師	

3. 薬局製剤・漢方製剤 関連LS P102, P103 塚原俊夫 262

1. 薬局製剤とは	262
2. 具体的な薬局製剤	262
3. 薬局製剤のはじまり	263
1) 薬律に基づく製剤 / 2) 薬局売薬と公定処方 45 処方 / 3) 国民医薬品集収載品 / 4) 現在の状況：日本薬局方と漢方製剤	
4. 薬局製剤の製造販売において守るべき法律項目と義務	265
1) 申請届出について / 2) 義務 / 3) 医薬品副作用健康被害救済制度	
5. 薬局製剤の要件について	265
6. 代表的な薬局製剤を作成してみよう	266
1) 薬局製剤の製造の一連の流れ / 2) 感冒剤 13 号 A を作成してみよう	
7. 薬局製剤の品質管理	267
8. 薬局製剤の販売について	268
9. 薬局製剤のもつ意味について	268

4. ドーピング防止活動 関連LS P509 塚原俊夫 269

1. ドーピングとは	269
2. ドーピング防止活動	269
3. うっかりドーピングを防ぐためには	270
4. スポーツファーマシスト	270
5. 禁止物質・禁止方法について	271
6. これからのスポーツファーマシストに期待されること	273

第 12 章 セルフメディケーションの支援

1. セルフメディケーションとは 関連LS S101, S103, P101, P401 ~ P404, P407, P509 鹿村恵明 274

2. 一般用医薬品の定義、スイッチ OTC とダイレクト OTC 鹿村恵明 276

関連LS S101, P202, P208, P401, P402, P404 ~ P407

1. 一般用医薬品	276
2. スイッチ OTC とダイレクト OTC	276
1) スイッチ OTC とは / 2) ダイレクト OTC とは	
3. 顧客（来局者）対応のシミュレーション	278

3. リスク分類と法律 鹿村恵明 281

関連LS S101, S103, S409, P101, P104, P202, P208, P401, P403, P404, P406, P407, P509

1. 一般用医薬品の販売形態	281
2. 一般用医薬品のリスク区分	281
3. 情報提供	283
4. 薬局における掲示事項（一般用医薬品関係）	284

4. 副作用防止（一般用医薬品）	関連LS P404～P407	塚原俊夫	288
1. 一般用医薬品による副作用報告			288
2. おさえなくてはいけない副作用			290
1) 薬理作用から予測できる副作用 / 2) 予測できないアレルギーによる副作用 / 3) 長期連用による副作用			
3. 一般用医薬品の副作用と添付文書			290
1) 添付文書の副作用項目の確認 / 2) 医薬品販売時にまず確認する事項			
4. 副作用が起こった場合の対処について			293
1) 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度 / 2) 医薬品副作用救済制度			
5. 医薬部外品・化粧品	関連LS P101, P511	塚原俊夫	294
1. 医薬部外品			294
2. 化粧品			294
6. 機能性食品	関連LS P404, P514	塚原俊夫	297
1. 特定保健用食品（特保）			298
2. 栄養機能食品			300
7. 医療機器	関連LS P101, P407	塚原俊夫	302
8. 毒物・劇物	関連LS P105, P511	塚原俊夫	304
1. 貯蔵			304
2. 譲渡・販売			305
3. 情報の提供義務（MSDS）			305
4. 事故・盗難の際の措置			305
索引			307

章末問題

2章	18	8章	218
3章	50	9章	246
4章	93	10章	252
5章	131	11章	273
6章	159	12章	306
7章	204		1章は章末問題なし

各章の最後のページに演習問題を掲載しています。CBTに準じた内容と形式になっており、各章の内容の整理とCBT対策に役立ちます。

解答と解説は、問題の下にあるQRコードを読み込むことによってお手持ちの端末でご覧いただけます。または、弊社ホームページの本書特典ページ（<http://www.yodosha.co.jp/vp/>）にも掲載しております。

※ QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です